

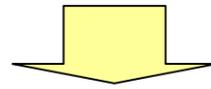
明日香村の保全・整備対策の拡充について

平成 21年 11月
奈良 県

【提案先】 総務省、財務省、文化庁、国土交通省

提案事項

我が国の律令国家体制が初めて形成された時代における政治・文化の中心的地域である明日香村について、以下の事項について提案する。



1. 奈良県が策定する次期明日香村整備計画への支援

次期明日香村整備計画（平成22年度から平成31年度）の策定の前提となる新たな“明日香村整備基本方針”を国において策定されるとともに、必要な事業費の確保を図りたい。

2. 奈良県が行う“歴史展示等のあり方”への支援

～ 国内外特に東アジアからの来訪者にもわかりやすい歴史展示を進める ～
奈良県が行う“明日香における歴史展示等のあり方基本方針”に基づく歴史展示等の充実（飛鳥京跡苑地の復原等）への支援を願いたい。

※飛鳥京跡苑地整備事業に伴う国庫補助金

文化庁	（史跡等公有化助成）	土地公有化	4 / 5
国土交通省	（都市公園事業国庫補助）	施設整備	1 / 2

3. 歴史的風土創造的活用事業交付金の拡充・強化

国民共有の財産である明日香村の歴史的風土を保全・活用するため平成12年度に創設された「歴史的風土創造的活用事業交付金」について、定住対策をはじめ耕作放棄地の解消による景観の維持・向上などの新たな取り組みを行うために拡充・強化が必要。

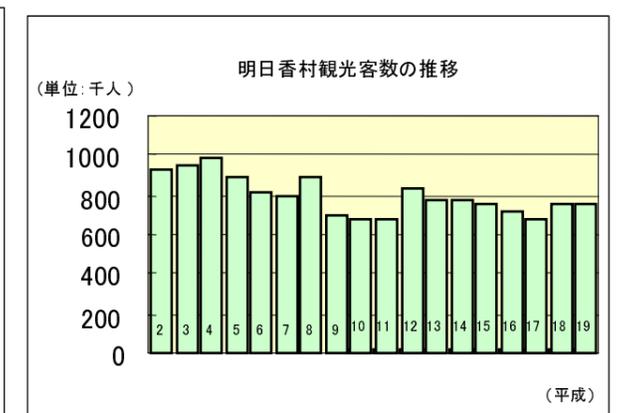
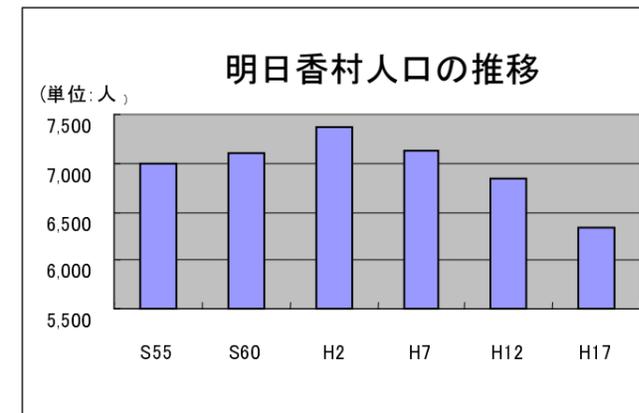
現状と問題点

1. 背景

- ・ 明日香村は、歴史的文化的遺産と周辺の豊かな自然環境と一体となった他に類例を見ない極めて貴重な歴史的風土を形成している。
- ・ これまで、「明日香村における歴史的風土の保存と生活環境の整備等に関する特別措置法」(昭和55年法律第60号)に基づき、歴史的風土の保存と住民生活の調和を図るための諸施策が講じられてきた。
- ・ 3次にわたる明日香村整備計画により、各種生活環境や産業基盤整備等に一定の成果があった。また明日香法等の規制により歴史的風土はおおむね良好に守られてきた。

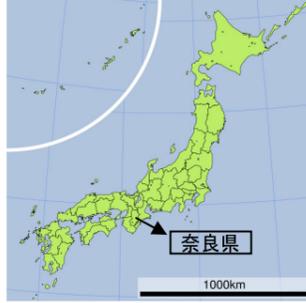
2. 明日香村の現状

- ・ 明日香村の人口は平成2年をピークに減少するとともに、高齢化も年々進行。また観光客数も伸び悩むなど地域活力が減退している。
- ・ 価値あるものが地下に埋もれており、来訪者にとって明日香の意義や歴史が理解し難い状況にある。また、古代より深い関係のある中国・韓国とのゆかりや遺跡について、歴史展示(案内)が不十分である。



【県担当部局】 地域振興部地域づくり支援課

明日香村



<奈良県高市郡明日香村>

- ・昭和31年7月、阪合村・高市村・飛鳥村が合併して誕生
- ・面積24.08㎡
- ・奈良盆地の東南部に位置し、大阪市より40Km、奈良市より25kmの圏域に位置する
- ・人口 6,343人 (H17国勢調査)
H12から7.35%減少 ※奈良県平均 2.30%減少
- ・高齢者比率 27.3% (H17国勢調査) ※奈良県平均19.9%

・6世紀末から7世紀末の約1世紀間、おおむね都が生まれ、我が国の律令国家体制が初めて形成された時代における政治の中心的地域

明日香村整備計画による整備状況

第1次整備計画 (S55～H1) 実績額84億円 (県31億円 村53億円)

明日香村の良好な歴史的風土の保存を図るとともに、住民が健康で豊かな生活を享受できるよう歴史的風土と調和のとれた**生活環境、産業基盤等を総合的に整備**し、農林業を主体とした**「歴史と文化のむらづくり」**をめざす。

- 生活環境の整備 ・生活基盤の整備、住環境の整備、厚生施設の整備、教育施設の整備
- 産業の振興 ・農業の振興等
- 歴史的風土の保存と文化財の保護 (飛鳥京、橘寺等の発掘調査)

第2次整備計画 (H2～H11) 実績額198億円 (県88億円 村110億円)

『**歴史的風土を生かした村づくり**』
・歴史的風土の維持・保存と住民生活の安定の調和を図りながら、農林業等の産業振興を図る。

『**健康で住みよい村づくり**』
・保健・医療・福祉体制の充実
・明日香村に住んでいることの誇りを持つような健康で住みよい村づくりを進める。

第3次整備計画 (H12～H21) 約158億円(予定) (県90億円 村68億円)

明日香村の歴史的風土は、そこに暮らす人々が生き生きと暮らすことで初めて成り立つ。
・このため、住民生活の安定向上、農林業の振興、地域産業の振興など**地域の活性化施策**が必要
・また、歴史的風土の保存とその利活用が両立できるよう、明日香村の歴史的風土を創造的に維持保全活用する。

明日香村の**歴史的風土を創造的に活用**し、体験し、実感できる**歴史文化学習の場**として、魅力ある**「日本のふるさと明日香村」**の実現を図る。

整備計画に対する住民の評価

☆アンケート項目: 整備計画による生活環境への効果	平成7年3月アンケート (飛鳥地方の活性化に関する調査)	平成19年6月アンケート (総合計画策定のための住民アンケート)
「とても効果があった」 +「効果があった」	35.7%	60.3%

明日香村の歴史展示等のあり方

現状

明日香の価値(=値打ち)は、明日香が律令国家発祥・形成の地であるという「歴史」そのものにあるが、誰もが歴史を体感できる状況ではない。

価値あるものが地下に埋もれており、来訪者にとって明日香の意義や歴史がわかりにくい。

東アジアから奈良を訪れる観光客は増加傾向にあるが、現地において東アジアとの「ゆかり」に関する情報が乏しい。

今後の取組み

奈良県が主体となり明日香の価値である「歴史」そのものを展示する～国内外、特に東アジアからの来訪者にも分かりやすい歴史展示を進める～

「明日香における歴史展示等のあり方基本方針」の作成と実施

「歴史物」の展示だけでなく「歴史」の展示を行う

・発掘物などの「歴史物」の展示だけでは、明日香の歴史はわからない。
・“仏教伝来”や“律令国家の形成”など、明日香の歴史そのものを誰もが理解できるよう、「わかりやすく、楽しく学ぶ」展示をする必要がある。
・県立万葉文化館を歴史の総合展示施設として活用する。

遺跡を復元し、飛鳥時代の景観を再現する

・飛鳥京跡苑池(朝鮮半島・百済の影響を受けた代表的な苑池遺構)などの飛鳥時代における重要遺跡を復元する。



飛鳥京跡苑池 (H11発掘説明会での様子)



飛鳥京全景(復原CG)

歴史的風土創造的活用事業交付金

1. 制度の目的
明日香村の歴史的風土の創造的活用により、学び、体験し、実感できる歴史文化学習の場としての整備を推進するため、明日香村が行う事業に対し、交付金により支援。
2. 制度の概要
 - (1)制度創設年度:平成12年度
 - (2)交付対象団体:明日香村
 - (3)交付金額 :平成12年度～16年度 定額(国100,000千円 県25,000千円)
平成17年度より 定額(国110,000千円 県27,500千円))
 - (4)交付対象経費:○歴史的風土を活用した歴史文化学習の場の整備に関する事業
○明日香村にふさわしい景観創出に関する事業
○歴史的風土を活用した地域産業振興に関する事業
○歴史的風土の保存についての国民啓発に関する事業

<制度創設の経緯>

明日香法に基づき歴史的風土の保存を図るために行われている事業等の財源として明日香村整備基金が造成され、昭和55年度から59年度の5年間で国24億円、県6億円、村1億円計31億円が拠出された。
最高運用益として昭和61年度には242百万円が計上されたが、以降の低金利により運用益が減少したため、平成12年度に歴史的風土創造的活用事業交付金が創設された。(※平成21年度運用益見込み 45百万円)